

三鷹市立中原小学校 令和5年度【算数】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年		<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○具体物や半具体物を用いて、数の大きさや数のまとまりに着目して、その意味や表し方についての経験を積むことができるようにしている。 ○具体物の操作を通して、考える力を養うようにしているが、操作の技能や速度に個人差が大きく、十分な時間を与えきれない児童がいる。 ○日常生活の問題を具体物などを用いて解決したり結果を確かめたりする活動に意欲的に取り組む児童が多い。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①問題文から問題場面をイメージできない児童がいる。 	
第2学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○具体物・視覚教材を用いた算数的活動を通して、自分事として捉えたり興味をもったりすることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○既習事項が身に付いておらず、基礎的な計算ができず正しい答えが出せない子が見られる。 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業の終わりに学習感想を書かせ、何を学んだか整理できるような振り返りの時間を設けた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①既習事項が身に付いておらず、単元の導入部分で既習事項を用いた思考をすることが困難な場合がある。 ②繰り上がり、繰り下がりのある計算が課題の児童がいる。 ③図や式を用いて、自分の考えを表現したり考えを説明したりする児童が多くいる一方で、それが難しい児童が一定数いる。個人差が大きいことが課題である。 	
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少人数で行っているため、習熟度がおおよそ把握でき、必要な場合は既習事項の確認から学習に入ることができた。 ○プロジェクターなどを活用し、視覚的にも理解できるようにし、さらに、意欲を高める導入の工夫などを行うことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「時刻や時間」「かけ算のひっ算」など定着が不十分な単元がある。 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知識・理解を定着させるため、その日に学習した内容の復習プリントやドリルを宿題に出した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学力の差が激しい。少人数で行っているため、問題を解くことができるが、暫くすると忘れてしまうため、定着が課題である。 ②dL→L、mL→Lなどの単位換算が苦手な児童が多くいる。 ③文章題が苦手。 ④九九や時刻、繰り下がりのある筆算の計算が未定着の児童が一定数いる。 	
第4学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元によっては検定を行い児童の学習意欲を高めることができた。 ○習熟度のクラスによって、学習内容の精選したり、プリント学習にしたりすることで学習意欲を切らすことなく取り組めた児童がいた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○下学年で習得しておくべき内容が習得できておらず、積み重ねの単元では教科書を使っての学習が困難な児童が複数いる。(自分にあった課題の準備が必要) 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自他の考えの根拠を明らかにしたり比較したりする学習活動の時間を確保している。 ○習熟度によって意欲の差が大きい。 ○習熟度が低い児童には、学習内容を精選したり、空欄に書き込むプリントを準備したりして、学習に向かいやすい工夫をした。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①問題場面を整理する力や表現する力の定着に課題がある。 ②4桁どうしの減法や、3桁×2桁など、数値が大きくなると計算ミスが多くなる。 ③コンパス、分度器を正確に操作したり読み取ったりすることが困難な児童がいる。また、それらを準備できない児童もいる。 	
第5学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習内容に合わせて、計算機を使う等の手立てをとることで、前学年の習熟が不十分な児童でも必要な知識・技能を習得することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な計算や図形、数量についての知識・理解の定着に個人差が大きく、既習事項を活用した学習が難しい。 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学力の個人差が激しい。 ○ノートを自分なりに分かりやすくまとめられる児童がいる一方で、書字に課題があり、筆算などで間違えて計算してしまう児童がいる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①問題の意味が理解できておらず、何を答えたらよいか分からない児童がいる。 ②いろいろな考え方が存在することに気が付かず、一つの考え方で終わってしまう。 ③計算力が課題の児童がいる。特に小数の計算が難しい。 ④既習事項が身に付いておらず、思考するのが困難な場合がある。 	
第6学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○みたく地域未来塾の活用や家庭学習に取り組みさせることで、基本的な計算や図形、数量についての知識・理解の定着がある程度図れた。 ○自分の考えを書くことができる児童が多い。考えが書けない児童は既習事項の理解が不十分なことが多い。また、自分の考えを書けていても、違う考えを広げようという意欲には個人差がある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○計算の仕方が定着しきれない児童も一定数いる。 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日常的にノートやワークシートなどの評価を行い、ノートなどからも知識の定着・習熟度を把握する。 ○学力の差があるため、特に星1ではミニ先生制度をとり入れ、児童同士で教えあいの時間を用意した。 ○本時の課題に対する自分のまとめを考えて書いたり、振り返る時間を確保した。 ○自分の考えをしっかりと言葉で説明できる児童もいれば、言葉にするのが苦手な児童も多い。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①既習事項が身に付いておらず、思考するのが困難な場合がある。 ②人口密度を求める割合の問題や、4桁以上の数を概数に変えることが苦手な児童が多い。 ③小数の乗法・除法に課題がある児童が多い。 ④文章からの立式や小数の計算力が弱い。 	